



Race Report

18-19 June 2011 / SUPER GT SERIES Round_3 Malaysia

triple a vantage GT2、予選7番手から 2連勝を狙うも、決勝はトラブルにより完走ならず

【Result】

06.18 Free Practice : 5 th (2'10"999)
06.18 Qualify 1 : 8 th (2'10"569)
06.18 Super Lap : 7 th (2'10"426)

Starting Grid : 7 th
Final : DNF

Series Ranking (Driver/Team) : 4 th / 5 th



【公式練習・予選】 2011.06.18 (Sta)

triple a vantage GT2 危なげなくSL進出 決勝7番手グリッドを獲得

■公式練習	【天候】曇	【コース】ドライ	【気温・路面温度】	開始時28℃/32℃	終了時32℃/38℃
■予選1回目	【天候】晴	【コース】ドライ	【気温・路面温度】	開始時34℃/44℃	終了時35℃/46℃
■SL	【天候】晴	【コース】ドライ	【気温・路面温度】	開始時33℃/44℃	終了時31℃/41℃

2011 AUTOBACS SUPER GT第3戦「SUPER GT INTERNATIONAL SERIES MALAYSIA」は、6月18日、セパン・インターナショナル・サーキット(マレーシア)で幕を開けた。この日行われたのは公式練習と公式予選、そしてスーパーラップ(SL)セッション。練習走行は現地時間の午前10時にスタートし、午前11時45分までの1時間45分にわたりGT500クラスとGT300クラスの混走で行われた。

前日に現地発表された天気予報では「雨が降る可能性も有る」との予報もあり、日差しは薄い雲に遮られ例年ほど気温は上昇せず。それでも結局このセッション中に雨が降る事は無くコンディションは終始ドライ。そんなコンディションの中、午前10時ちょうどにコースオープンとなるとGT500とGT300のほぼ全車が走行を開始。前戦岡山で劇的なSGT初優勝を記録したtriple a vantage GT2は、セッション前半は路面状態が安定していない事を考慮し、焦る事無くこまめにピットインを繰り返しマシンの状況をチェックしていく。気温や湿度等、日本国内でのレースとは違った環境でのレースウィークという事もあり開始から全体的に静かな展開となったこのセッションであったが、triple a vantage GT2は「初めての40Kgウェイト(ハンディ)には少々苦労したけど、セットは良いところまで詰められた」というコメントを残し最終的に5番手タイムをマーク。ますますの状態午後に行われる公式予選へと挑む事となった。



昼頃まで曇り空だったセパンインターナショナルサーキット上空。するとその後は前日の予報とは事なり南国の太陽が顔をだしセパンラウンド特有の暑さに戻ってきた。そんな中、公式予選1回目は最も暑い時間帯となる午後2時15分からスタート。このセッションは、最初の30分間がGT500クラスとGT300クラスの混走、その後各クラス10分ずつの占有走行セッションとなる。この予選でまずコースへと向かったのは星野選手。その星野選手はアタックを始めてすぐに予選通過基準タイムをクリアしピットイン、吉本へとドライバーチェンジを行う。さらにステアリングを受けた吉本もすぐさま基準タイムをクリア、ここで一旦ピットへと戻り、SL進出を賭けたアタックを前にマシンへの最終調整を施していく。

triple a vantage GT2はその後占有走行時間帯に入ったところでNEWタイヤを履いて吉本がコースイン。この10分間でやるアタックは3Lap程度となるが、吉本はこの限られた時間の中、アタックをまとめ8番手タイムをマーク。開幕から3戦連続となるトップ10圏内での決勝グリッド獲得を確定させ、SLへとコマを進めて見せる。さらに吉本は1時間程のインターバルを挟んで行われたSLでベストアタックを見せ、公式予選1回目から一つ順位を上げる7番手タイムをマーク。「トップのマシンとはかなりのタイム差ですが、ポチポチです。ウェイトはやっぱり効いてますけど重視すべきは決勝。決勝に向けては自信あります。」というコメントを残し翌日の決勝に挑む事となった。

11' SUPER GT SERIES Round_3 / Malaysia
2011.06.18 (Sta) Free Practice & Qualify
Text: www.hiroki-yoshimoto.com

PERSONAL SPONSORS

TWS

Corniche

S&I

VAPSn XPEL
Car Protection Specialist

osaka hall

TAKAI
CORPORATION INC.

esprit Car Beauty Factory

金剛防災

PARTNERS

PL0T2

Arai

SIDEWINDERS

HY SPEED

HY Management Co., Ltd.
info@hy-management.com
www.hiroki-yoshimoto.com



Race Report

18-19 June 2011 / SUPER GT SERIES Round_3 Malaysia

【決勝】 2011.06.19 (Sun)

triple a vantage GT2、2連勝を狙うも マシントラブルにより完走ならず

■決勝 【天候】曇り【コース】ドライ【気温】34℃【路面温度】43℃

このレースウィークを通じて最も気温が高くなったこの日のセパン国際サーキット。午後4時のフォーメーションラップスタート時には暑さの盛りは過ぎ、曇りがちの空模様にはなったものの、気温は34度、路面温度は43度というコンディションでのレーススタートとなった。triple a vantage GT2はこの日のフリー走行で決勝に向けた最終調整を行いマシンもノートラブル。ピット作業のシュミレーション等も完璧に済ませ決勝でのポジションアップに期待を感じさせスタートの時を迎えた。

ところが決勝のスタート直前、14:55から開始されたウォームアップラップの後、15:10のピット出口オープンと同時にグリッドへ向かうべくピットを後した星野選手から突然トラブルを知らせる無線が入る。「エンジンにパワーがない気がする…」この報告を受け急遽グリッド上での修復作業に追われる事となったメカニックとスタッフは、明確な原因が解らない中、スタートまでのわずかな時間で出来る応急処置を施し、祈る気持ちでフォーメーションラップへとマシンを送り出す。しかしその祈りも虚しくスタート担当の星野選手からは「ダメ！やっぱりパワーがない！」との無線が。何とかそのままスタートは切ったものの、レーシングスピードを保てる状態ではなく、スタートから2周目には緊急ピットイン。ここでトラブルに陥る事になった。ところが結局このパーツ交換もトラブル修復には繋がらず、チームは星野選手を再度ピットへと呼び戻す。

この時点ですでにレースの勝負権は完全に失ってしまっていたtriple a vantage GT2ではあるものの、この先のシーズンを考えれば少しでも走行距離を稼ぎデータの収集も行いたいところでもあり、メカニック&スタッフはレースの完走を目指し急ピッチで作業を行っていく。そしてその後レースが中盤に差しかかる程のところまでマシンを三度コースへと送り出す。この必死の作業で一旦は回復したかのように見えたtriple a vantage GT2。しかし数周後には再びエンジンパワーが低下してしまい、最終的にチームは「原因不明なトラブルを抱えたままマシンを走らせることは今後の事を考えても危険」と判断。星野選手を再びピットへと呼び込みリタイヤを選択、吉本大樹は決勝レースを走る事無くここでレースを終える事となった。

開幕からの3戦は優勝&リタイヤ2回と、結果的に浮き沈みのあるリザルトとなっているものの、どのレースも予選等では好タイムをマークしているtriple a vantage GT2。トラブルが無ければ常にトップグループでレースを組み立てられる位置におり、次戦SUGOIには巻き返しを期してレースに挑む事となる。

11' SUPER GT SERIES Round 3 / Malaysia

2011.06.19 (Sun) Final

Text : www.hiroki-yoshimoto.com

【Aspeed Official Site】 <http://www.aspeed.co.jp/>

【SUPER GT SERIES Official Site】 <http://www.supergt.net/jp/>

【吉本大樹 Official Site】 <http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

【吉本大樹コメント】

勝った後のレースというのは非常に大事な一戦なのでリタイヤという結果は非常に残念です。フリー走行では40kgのウェイトの関係でバランスを出す作業に少してこずりましたが、決勝に向けて考えると非常に良い状況ではありました。一発のタイムは出にくいセットではあったものの、なんとかスーパーラップに進むことはでき、我々が期待していた決勝でのパフォーマンスを考えれば7番手という予選結果も悪くはありませんでした。タラレバでいえば3位は確実、そしてトップ争いにも加わったレースだったと思います。しかしこれがレース。マシントラブルは誰を責めることもできません。



次戦のSUGOIは我々のマシンがもっとも苦手とするタイプのコースです。シリーズを考えるとここで取りこぼしたポイントは非常に痛い。しかし昨年を思い返してみればSUGOIであってもやはり決勝でのペースは非常に良かった。残りのレース、取りこぼしなく、そして『もう一度どこかで勝つ』事で今回の結果を帳消しにしたいと思っています。次につながるレースだったと信じていますので、次のレースも応援宜しくお願いします！

PERSONAL SPONSORS

TWS

Corniche

S&I

VAPSn XPEL
Car Protection Specialist

osaka hall

TAKAI
CORPORATION INC.

esprit Car Beauty Factory

金剛防災

PARTNERS

PL0T2

Arai

SIDEWINDERS

HY SPEED